

テーマ：10月商業販売統計

発表日：2005年11月28日（月）

～小売業販売額は前年比▲0.3%と高めの気温の影響で8ヶ月ぶりに減少～ (No. J-169)

 第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 徳永 香奈
 TEL：03-5221-4549

(要旨)

- 10月の商業販売額は前年比+1.9%増加した。内訳をみると、卸売業が同+2.6%と2ヶ月ぶりに増加した一方、小売業は同▲0.3%と6ヵ月ぶりに減少した。小売販売額は事前のコンセンサス（中央値：+0.5%、レンジ：▲0.6～+1.1%）をやや下回った。
- 小売業を業種別にみると、燃料小売業（前年比+6.7%）、その他小売業（同+4.8%）が増加に寄与した。一方、その他の業種は総じて低調であった。減少の主因は、気温が高めだったことによる季節商品の販売低迷や生鮮食品の価格下落等が名目ベースでの販売額を下押ししたと考えられ、個人消費の底堅い推移が続いているというトレンドに変わりはない。
- 先行きの個人消費を展望すると、雇用・所得環境の改善傾向が個人消費を下支えする構図が継続するだろう。ただし、高水準にとどまっている石油価格がマインドや実質購買力低下を通じて、個人消費を押し下げるリスクは懸念材料である。

		商業販売額										コンビニ販売額			
		卸売業		小売業				大型小売店			百貨店			スーパー	
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店前年比	既存店前期比	既存店前年比	既存店前期比	前年比	既存店前年比	
03	7-9月期	▲1.2	▲1.1	▲0.9	▲1.6	▲2.2	▲0.9	▲2.0	▲4.3	▲3.0	▲5.2	▲0.1	▲3.9		
	10-12月期	0.0	1.7	0.4	2.6	▲1.2	0.3	▲1.9	▲3.1	▲2.2	▲4.0	2.2	▲1.5		
04	1-3月期	0.9	▲0.8	1.1	▲1.2	0.2	0.7	▲0.5	▲2.1	▲0.8	▲2.9	2.2	▲2.1		
	4-6月期	1.3	1.7	2.4	2.5	▲1.9	▲1.8	▲1.8	▲3.9	▲2.9	▲4.6	2.1	▲1.4		
	7-9月期	3.4	0.9	4.5	1.3	▲0.3	0.4	▲0.9	▲3.5	▲3.2	▲3.6	4.3	1.1		
	10-12月期	3.1	1.0	4.2	1.0	▲0.5	0.3	▲2.0	▲4.6	▲3.9	▲5.1	2.1	▲1.1		
05	1-3月期	2.1	0.0	2.7	▲0.5	0.0	2.3	▲1.5	▲4.1	▲3.2	▲4.8	0.5	▲2.1		
	4-6月期	2.7	0.9	2.5	0.9	3.2	0.1	▲0.4	▲2.4	▲0.4	▲3.8	1.9	▲1.5		
	7-9月期	2.2	0.3	2.6	1.3	0.8	▲1.9	▲0.8	▲2.4	▲0.2	▲4.0	1.4	▲2.3		
	10月	0.9	3.0	1.4	3.4	▲0.9	0.1	▲1.6	▲4.2	▲3.5	▲4.7	2.1	▲1.1		
	11月	5.7	▲0.6	7.4	▲0.1	0.6	▲0.8	▲2.7	▲5.3	▲5.4	▲5.2	2.1	▲1.3		
	12月	2.7	▲0.4	4.0	▲0.5	▲1.0	0.2	▲1.8	▲4.2	▲2.8	▲5.3	2.2	▲0.9		
05	1月	3.8	3.8	4.3	3.1	2.4	4.6	1.4	▲1.2	0.7	▲2.6	1.3	▲1.9		
	2月	2.2	▲2.3	3.8	▲1.7	▲2.7	▲2.6	▲4.2	▲6.7	▲7.2	▲6.3	▲1.9	▲2.8		
	3月	0.7	▲4.8	0.9	▲6.1	0.3	▲1.2	▲2.4	▲4.5	▲3.2	▲5.5	1.9	▲1.5		
	4月	3.1	6.9	2.9	8.1	3.8	2.8	▲0.5	▲2.3	▲0.5	▲3.6	2.3	▲1.2		
	5月	3.1	▲3.5	3.2	▲4.0	2.9	▲1.4	▲0.5	▲3.1	▲1.4	▲4.2	1.3	▲2.0		
	6月	1.9	1.5	1.6	1.7	3.0	0.0	0.0	▲1.9	0.7	▲3.6	2.2	▲1.4		
	7月	0.3	0.7	0.2	2.1	0.6	▲2.2	▲0.4	▲1.7	0.6	▲3.4	▲1.1	▲4.9		
	8月	4.7	1.7	5.7	1.4	1.5	1.5	▲1.3	▲2.8	▲1.2	▲3.7	2.0	▲1.4		
	9月	1.5	▲4.1	2.1	▲4.8	0.1	▲0.8	▲0.9	▲2.7	0.0	▲4.5	3.5	▲0.3		
	10月	1.9	3.5	2.6	4.2	▲0.3	▲0.3	▲2.0	▲3.4	▲0.4	▲5.6	0.5	▲3.0		

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

●10月の商業販売額は前年比+1.9%（卸売業+2.6%、小売業▲0.3%）

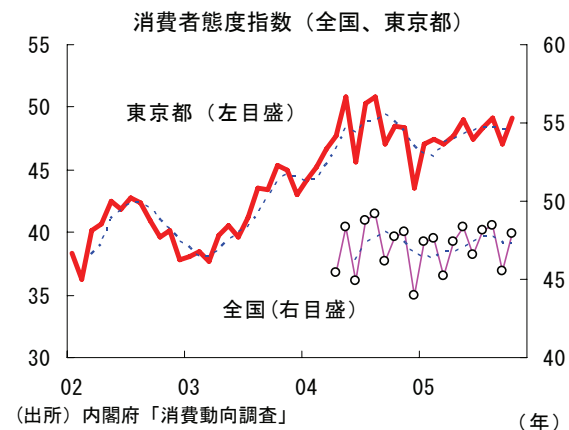
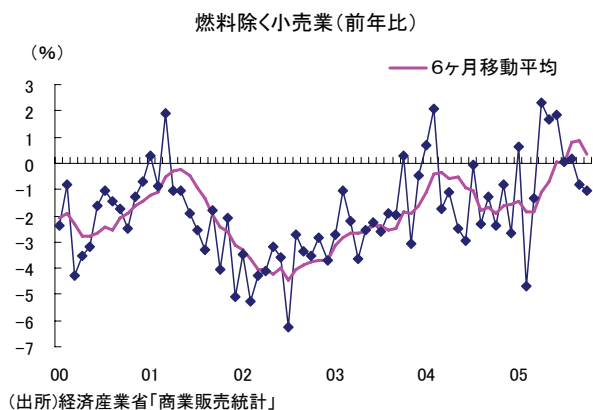
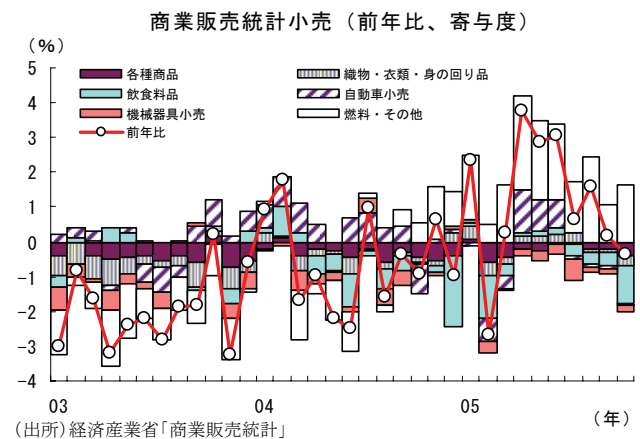
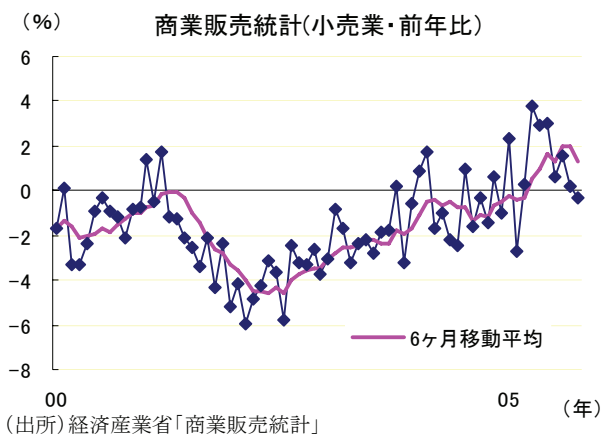
10月の商業販売額は前年比+1.9%増加した。内訳をみると、卸売業が同+2.6%と17ヶ月連続で増加した一方、小売業は同▲0.3%と8ヵ月ぶりに減少に転じた。小売販売額は事前のコンセンサス（中央値：+0.5%、レンジ：▲0.6～+1.1%）をやや下振れる結果となった。

また大型小売店販売額については、前年比▲3.4%（既存店）とマイナス幅が拡大、業態別にみると百貨店販売額が同▲0.4%と2ヶ月ぶりに減少に転じ、スーパーは同▲5.6%とマイナス幅が拡大した。

●高めの気温の影響で冬物衣料品が伸び悩み

小売業を業種別にみると、燃料小売業（前年比+6.7%）、その他小売業（同+4.8%）が増加に寄与したものの、その他の業種は総じて低調であった。自動車小売業（同▲0.5%）も4ヶ月連続で減少するなど小売業全体の販売額は8ヶ月ぶりに減少し、やや芳しくない結果となった。

もともと、内容的にはヘッドラインほど悪い内容ではない。小売業販売額を大きく押し下げた飲食料点小売業の減少は（前年比▲3.5%）、前年の台風被害による生鮮食品価格高騰の反動によって、名目ベースでの販売額が押し下げられたことが大きい。また、平年に比べ気温が高めに推移したことによる冬物衣料の動きが鈍かったことも織物・衣服・身の回り品小売業（同▲3.5%）の販売を下押しした。このような天候要因や前年からの価格の低下要因、堅調な小売業などを考慮すれば、それほど悪くない内容である。実質ベースの小売業販売額では前年対比でプラス基調を維持していることも鑑みれば、個人消費は底堅く推移しているといえよう。



●雇用・所得環境の緩やかな改善を背景に個人消費は底堅く推移

先行きについても、雇用・所得環境が改善傾向にあること、消費マインドも高水準で安定していることによって個人消費を下支える構図が続くと予想される。ただし、高水準にとどまっている石油製品価格がマインドや実質購買力の低下を通じて、個人消費を押し下げるリスクには注意が必要である。足もとで原油価格の上昇は一服しているが、為替が円安基調となっていることもあり、石油製品価格は依然高どまっている。原油価格は今後も大幅な下落は考えにくいと見られ、引き続きリスク要因として注視していきたい。